

平成24年度 学校自己評価システムシート（県立南稜高等学校）

2月15日作成

目指す学校像	明るく伸びやかな校風のもと、生徒たちが豊かな心を育み、高い目標に向かって意欲的に活動する学校を目指します。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の充実と3年間を通じた学力の向上 2. 学校行事や部活動などを通じて自律的、意欲的に行動できる生徒の育成 3. 一人ひとりの進路の充実と進路実現を通じた成長の最大化 4. 家庭・地域とのコミュニケーション深化と、家庭教育との連携強化
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	20名
	事務局（教職員）	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題などの家庭学習を習慣化する生徒が少しずつ増加している ・授業満足度は継続して改善傾向だが、授業中の集中力等に欠ける場合がある ・昨年度から月曜日7時限を実施 ・H24年度から3年間、文科省事業「英語力を強化する指導改善の取組」の拠点校となる ・公開授業、研究授業が増えた。教科指導に関する外部研修等への参加者も増加。更なる成果の共有を促進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業改善の取り組み、教員間の連携 ・生徒の予習・復習を含めた学習習慣の確立と継続的な学力の向上 ・生徒の授業に取り組む姿勢の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会や職員研修会等を授業公開と連携させ、授業改善・家庭学習対策等の共通理解を図る ・チャイム着席の授業を徹底 ・H25年度からの新教育課程実施に向けて職員研修会等を行い、授業の充実につとめる ・「英語力を強化する指導改善の取組」事業の実施 ・県教委や予備校等の外部機関の実施する研究会・研修会等への参加者を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自年1回以上の授業公開の実施状況 ・学校生活アンケートの授業満足度、対前年度比較 ・授業改善や新教育課程に関する職員研修会の実施回数、出席状況、職員の共通理解の状況 ・校外の研修会等への参加状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次研修、初任者研修、CoREF、英語力を強化する指導改善の取組の拠点校等多くの研修に関連させ、研究授業の機会も多く、各教科で授業改善に取り組んだ。 ・新教育課程実施に向けて研修を行い共通理解が得られた。 ・アンケートの授業満足度は5%増加した。また、授業の雰囲気も肯定的な回答が増えたが、家庭学習時間が減少した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き各事業と関連させながら研修を実施し、授業の充実に努める。 ・家庭学習の習慣を身に付けさせる方策を検討し、学習時間の増加とともに学力の向上に努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻や身だしなみなど基本的な生活習慣の改善が続いている ・部活動での活躍が増え、継続率が向上し、生徒の意欲も増している。女子の運動部加入率は低下 ・自転車交通マナーの改善、加害事故減少の一方で、被害事故は後を絶たない ・携帯電話、ネット利用に関するトラブルが発生している ・アルバイトをする生徒が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の定着 ・部活動の支援、加入状況の把握 ・自転車マナー、交通安全指導での家庭、地域との連携 ・携帯電話マナーでの県教委との連携 ・学校生活との関連、家庭との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で足並みをそろえて身だしなみ、遅刻指導を徹底する ・交通安全の校門前指導や学校周辺指導を推進する ・自転車の傘差し運転禁止(レインコート着用)指導の徹底 ・近隣自治会に学校付近の生徒の交通マナーや安全情報提供の協力を要請する ・携帯電話の授業中等の使用禁止の徹底、マナーの向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の制服着用状況 ・チャイムtoチャイムの徹底状況 ・部活動継続率、未加入者等の把握 ・交通事故件数の推移 ・レインコートの着用状況 ・ネットトラブル件数の推移 ・各学年、教科指導等の協力 ・アルバイト届の提出状況 ・学校生活アンケートのアルバイトに関する結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な部活動や行事などの体験を通じた学びが充実している ・遅刻数は昨年に比べて減少している。一学年の朝学習も遅刻対策として有効に働いた。 ・制服着用の違反は減少しているが、だらしない着こなしは目立つ。 ・自転車傘差し運転は減っており、指導は行き届いている。 ・交通事故件数は依然として多く、今後も継続的な課題である。 ・携帯電話を授業中に隠れて使用している生徒がいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻の多い生徒は限られており、繰り返さないための対策が必要。 ・自転車事故を減らすための対策が必要。 ・生徒・保護者の学校生活アンケートの回答を踏まえ、いじめの把握、対応が必要 ・盗難防止に向けての取組の強化。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度は大学進学者数・率とも過去最高となり、進学志向が一層高まっている ・一般入試、センター利用入試の割合は依然として低いが、センター利用での合格が増えた ・H25年度からの一般受験に対応するクラス編成が決まり、H24年度は準備期間となる ・将来の職業や進学先の専門分野選択に関する生徒の志向に広がりが見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・上位校や特待生入試へのチャレンジをサポートする体制 ・センター受験の生徒の意識付けと教員の指導対策強化 ・一般受験に臨む意欲喚起の機会の創出と継続 ・自身の将来を見据えての選択力を養うキャリア教育・進路学習の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス等の全体への説明会の適宜実施と、模試結果分析・進路相談等による個人への目配りの両面アプローチ強化 ・一般受験におけるセンター試験の役割を認識させる行事の工夫とセンターの計画的実施 ・当該学年や学力向上推進会議との連携による説明会の実施と情報発信 ・進路意識啓発の工夫と、多様な進路希望に対応した情報収集・活用、相談体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事実施後の生徒の相談申し込みや進路資料室利用等の頻度 ・模試受験者数の増加率 ・センター試験、一般入試の上位校受験の状況 ・一般受験に対応するクラスへの希望状況、進路相談機会の増加 ・生徒の進路開拓意欲の向上や志向の拡大の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信、各種行事の実施、閲覧や貸出用資料の増量で、進路に対する関心や意識の高揚がうかがえ、相談や資料利用のための来室者は増加した。 ・受験への意識高揚を図るため、センター試験と関連づけて集会を開き計画的に指導を行った結果、参加者数やセンター受験率が増加した。 ・将来の職業を見据えての資格取得等を考慮した堅実な進路志向は増加したが、選択範囲にはまだ拡大の余地がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に効果的な情報や取捨選択と発信の一層の推進と、閲覧・貸出資料の一層の入手 ・2年生、1年生の利用機会の増加への工夫 ・センター入試対策の受験指導の一層の組織化と取組の深化 ・一般受験希望者漸増への対応とサポートのための、委員会・学年との一層の連携 ・進路意識を高め、選択範囲拡大に繋がるキャリア教育等の方法の模索と機会の創出
4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの地域貢献、社会貢献の機会が増え、地域での好評価が確立している ・PTA活動は活性化している ・家庭教育との連携の機会は限定的 ・同窓会の再構築が進んでいる ・学校HP閲覧数増加中 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者や地域からの評価 ・PTA活動への保護者の参加状況 ・生活面、学習面等の指導方針の保護者との共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動をさらに充実させる ・生徒の地域貢献、社会貢献活動の機会を拡充する ・例年の活動に限定せず、PTA主体の活動を充実させる ・行事や学校HP等で保護者とのコミュニケーションを拡充する ・同窓会活動を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの評価、地域の評判、学校評議員会・評価懇話会での評価 ・PTA活動の参加者数、活動内容の変化 ・同窓会総会、30周年記念事業の実施状況、支援状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での評判、高い入学希望者数を維持、向上させている ・PTAは役員は活発だが、それ以外の保護者の参加が伸び悩み ・広報「なんりょう」は刷新され、学校HP閲覧数は対前年2割増加 ・同窓会は記念事業成功、休眠状態脱出。現役生ともつながりができた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA参加の恒例行事だけでなく広く学校活動について保護者の理解と協力を進める ・インターアクトや交換留学などでの活発な地元ロータリークラブとの連携を維持する ・同窓会の維持発展に協力し、現役生の愛校心につなげる

実施日	平成25年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・協調学習や「英語力を強化する指導改善の取組」等の新しい取組では、授業の充実は図られている。しかし、家庭学習時間が昨年度より減少しているため学習時間を増加する方策が必要である。 ・平日の家庭学習時間が確保されていないなど、学力の向上・進路指導等すべてを学校任せにしている。生徒自身が、学校任せにしない取組姿勢を育ててほしい。 ・図書館や進路室の利用率を調査してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻は減少しているが、特定の生徒の遅刻が多いので、その生徒の指導法を考えてどうか。 ・制服の着こなし(特に女子のスカート丈)を指導する事で学校生活に集中させる様にする。 ・アルバイトに対する規制を設けてはどうか。 ・個人情報に対する意識を高め、早い段階で学校で自己情報の管理の仕方を学べるシステムが急務である。 ・アンケートでは3時間以上とあるが、評価懇話会で携帯・スマホ等の使用時間の全てが無駄な時間でないことが分かった。もっと学習への有効利用を促したい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に集中出来てない生徒を見かける。勉強に対するモチベーションを高める方策が必要ではないか。 ・卒業時の進学に関する満足度は一般受験に比べると、指定校入試やAO入試等は満足度が低いので、一般受験をもっと促す事が重要かもしれない。 ・指定校以外に進路を充実させる取組を検討したらどうか。 ・一般受験クラスの設置にあたり、授業内容も目的にあったものにした方が良いのではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとって部活動は、南稜高校の大きな魅力の1つである。 ・学校から出される課題は取り組むが、自分で課題を見つけ取り組む力が不足しているので何か工夫してはどうか。 ・ワールドカフェ方式での評価懇話会は、多くの生徒や保護者の意見を聞く事ができ、有効な方法である。